



Welcome to  
Fukuyama  
in Japan 2024

# 世界バラ会議 福山大会 基本方針

2019年(平成31年) 3月

世界バラ会議福山大会準備委員会

World Rose Convention Fukuyama Preparatory Committee

# 目次

1. はじめに .....	1
2. 世界バラ会議について .....	2
3. 福山大会の開催意義 .....	3
4. 福山大会のテーマ .....	4
5. 福山大会の開催コンセプト .....	5
6. 福山大会のレガシー .....	8
7. 福山大会の概要 .....	11
8. ロードマップ .....	12
(補足資料) 開催経歴／歴代開催都市 一覧 .....	13

## 「ばら」と「バラ」の表記について

福山市では、「ばら」は1985年(昭和60年)に市の花を「ばら」と制定した際に、平仮名で「ばら」と表記することとしています。なお、「世界バラ会連合」「世界バラ会議」は固有名詞であるため、片仮名で「バラ」と表記しています。



# 1.はじめに



市内の至る所にばらが咲き誇る福山市とばらとの深い関わりは、戦後復興期まで遡ります。

1945年(昭和20年)8月8日、空襲を受け、福山市は市街地の約8割を焼失しました。

戦争の傷跡が癒えない1950年代半ば、まちの復興に向け懸命に生きる住民の中から「花を植えよう。荒廃したまちに潤いを与え、人々の心に和らぎを取り戻そう。」という声が起こりました。そして、市民の手によって現在のばら公園におよそ1,000本のばら苗が植えられたのが、ばらのまちづくりの始まりです。

この動きは多くの人々の心を打ち「花は美しい、それを愛し育む人の心はなお美しい」を合言葉に、市内の至る所に小さなばら花壇が作られ、市民みんなで盛り上げる福山ばら祭が開催されるなど、ばらを通じた様々なまちづくりが取り組まれてきました。

1985年(昭和60年)にはばらは市の花に制定され、まさに福山市のシンボルとなり、さらに市民の大切なふれあいの場となっているばら公園は、2006年(平成18年)5月に「世界バラ会連合優秀庭園賞」を受賞しています。

こうして、ばらを愛し育む心は家庭の庭先から道沿いの小さな花壇へ、そしてまち全体に広がり根付いたその成果として、2015年(平成27年)に「福山市ばらのまち条例」が制定され、市制施行100周年に当たる2016年(平成28年)に「100万本のばらのまち福山」が実現しました。

そして、2018年(平成30年)第18回世界バラ会議デンマーク・コペンハーゲン大会において、戦後60年以上に及ぶばらのまちづくりや“ローズマインド(思いやり・優しさ・助け合いの心)”を大切に育ててきた取組が認められ、2024年の福山市での世界バラ会議開催が決定しました。

ばらをテーマに多くの人が集まるこの大会を契機に、まちや人々にもたらされる効果を大会開催後もレガシー(未来への有形・無形の遺産)として残していくために取組の基本方針を策定しました。世界各国からお迎えする皆様に満足していただくとともに、市民の皆様にとっても郷土への愛着と誇りを感じられるような大会をめざしていきます。



## 2.世界バラ会議について



世界バラ会議世界大会は、50年の歴史を持つ、現在世界40か国が加盟する世界バラ会連合(The World Federation of Rose Societies)の最大の大会で、3年に1度開催するばらに関する国際会議です。大会には、世界各国からばらの研究者、生産者、愛好家、芸術家など、世界のばら関係者約600~700人が一堂に会します。

世界大会では、毎回ばらについての知識の啓発と普及、研究の促進、分類やコンテストの審査基準の提示・標準化などについて、それぞれの課題の解決や目標達成のための方策を論じ合うとともに、世界のばら愛好家の相互親善、情報交換の場として機能してきました。具体的には、各国の代表が世界バラ会連合の目的達成のために討議する各種委員会、最新の情報等の講義、開催国のばら園の視察などが実施され、各国から参加したばら関係者の間で交流が深められています。加えて、優秀庭園賞の決定、栄誉の殿堂入りのばらの審査・決定などが行われます。まさに、ばらの世界に絶大な影響を与える、権威ある大会と言えます。



### 【加盟国40か国】

アルゼンチン	オーストラリア	オーストリア	ベルギー	バミューダ	カナダ	チリ	中国
チェコ	デンマーク	フィンランド	フランス	ドイツ	イギリス	ギリシャ	ハンガリー
アイスランド	インド	イスラエル	イタリア	日本	ルクセンブルク	モナコ	オランダ
ニュージーランド	北アイルランド	ノルウェー	パキスタン	ポーランド	ルーマニア	ロシア	スロバキア
スロベニア	南アフリカ	韓国	スペイン	スウェーデン	スイス	アメリカ	ウルグアイ



### 3.福山大会の開催意義



広島市に原爆が投下された2日後、被爆地から100キロほど離れた福山市も空襲を受け、復興に向け懸命に努力し続けました。

そんな戦争の傷跡を癒し、人々の心に希望を与えてくれたのは、花であり緑でした。多くの市民が、戦後の復興と心豊かで平和な未来への願いをばらに託し、60年以上の歳月をかけ「100万本のばらのまち」が実現しました。

市内の至る所に市民が大切に育てたばらが咲き誇るまちの姿は、平和へのメッセージを発信するとともに、世界バラ会連合が開催する世界バラ会議に新たな価値をもたらすものであると考えます。

ばらを愛し、人を愛し、まちを愛する心を育み、ばらのまちづくりを続ける福山市で、世界バラ会議を開催することは、まちの発展に大きな成果をもたらします。

日本での開催によって、花き・園芸などのばら文化や花ビジネスの新たな礎が築かれるだけでなく、国内におけるばらを始めとした花々や緑の木々に対して愛着を抱く人々の輪が広がり、さらには国際交流が盛んになることも期待されます。

また、福山市での開催は市民・企業・行政が一体となった連携体制の構築や国際都市としての基盤を整えながら、観光・産業の拡大につなげることで、地域が活性化し、市民の暮らしがこれまで以上に豊かになることが期待されます。

この大会を成功させることは、開催国としての日本のプレゼンス<sup>※1</sup>や福山のブランド力の向上につながるだけでなく、市民主体となって取り組むばらのまちづくりが更に活気づき、まち全体を次なるステージへと押し上げる福山の未来を創る大きな機会となります。

※1 プレゼンス…「存在、存在感」の意。ここでは世界的な大会の開催による日本の国際的な存在感を意味する。



## 4.福山大会のテーマ



### Roses for the Future

～ 福山からはじまる,新しい未来 ～

見る人の心を癒やし,笑顔をもたらすばらの力と  
互いを思いやり,助け合う心を大切にする市民の力で,  
まちと市民が後世まで輝き続ける  
福山とばらの新たな未来を切り拓いていきます。





## 5.福山大会の開催コンセプト



2024年に開催する大会は、ばらを平和とまちづくりの象徴として育んできたまちとして、福山らしい、より充実した意義深いものにしたいと考えています。訪れる人全てに、ばらのまちづくりに関わってきた市民の熱意や誇り、ばら文化の息吹を体感してもらいながら、新たな価値を創造する大会をめざしていきます。

また、世界バラ会議を実施する世界バラ会連合においては、2018年(平成30年)に50周年を迎え、新たな時代へ向けた世界バラ会連合の在り方を示す節目の時期となっています。

国際社会でも、2015年(平成27年)9月の国連持続可能な開発サミットにおいて、2030年までに開発途上国や先進国に求められる普遍的な国際目標として「持続可能な開発目標(SDGs<sup>※2</sup>)」が掲げられ、日本でも積極的に取り組むこととしています。

大会では、国や県、他の自治体等とも連携し、これらの世界情勢を踏まえ、ばらを単に園芸や個人的な趣向として楽しむだけでなく、花育などの情操・環境教育分野、安らぎやストレスマネジメントなどの健康・医療分野、さらには地域コミュニティを活性化する福祉分野や美術・工芸・音楽の芸術分野など、様々な分野での可能性に目を向け、大会の準備段階から市民や専門家がそれぞれの力を集結させて、今までにない新たな試みの大会を提案していきます。こうしたみんなで参加し創り上げる「協働型」の大会とすることで、市民の力の向上を図るだけでなく、国内外のばらのファンの拡大をめざしていきます。

そして、ばらの可能性や希望が感じられ、大会に関わり参加する全ての人の心に残り、「新しい未来」を創る大会にしていくため、次の3つの目標を設定し取り組みます。

### みんなで創る “ローズマインド”を大切にしたら、みんなで創る大会に

戦後、まちの復興への願いをばらに託し、60年以上の歳月をかけて育んできた“ローズマインド”。福山大会の開催に当たって、この精神を軸に市民みんなで手を取り合い、共に大会成功の夢を描き、実現していくために、企画の段階から多様な立場の人々がアイデアを出し合い、互いの意見を取り入れながら、共に創り上げる大会としていきます。

※2 SDGs…「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称。開発途上国や先進国問わず国連に加盟する計193か国が2016年(平成28年)~2030年の15年間で達成すべき「環境」「教育」「健康」「まちづくり」などの計17の目標が掲げられている。

大会に向けたプロセスでは、市民の参画はもちろんのこと、世界バラ会連合などの世界各国と日本全国のばらの関係者、また研究機関や大学等の参画も図ります。同時に、世界バラ会連合からの最新情報も積極的に取り入れて市民の見識を深め、新たなアイデア等が生み出されるよう努めます。

また、国内外の人を始め多くの人に参加しやすいよう、参加者を温かく迎え入れるホスピタリティ(おもてなしの心)の充実を図るとともに、地域住民や子どもたちが育てたばら花壇、福山城や鞆の浦を始めとした観光スポットの周遊プログラムなど、自然・景観・食・文化等とのふれあいや魅力が体験・体感できる企画も取り入れていきます。

運営に当たっては、市民・企業・団体・留学生や海外研修生などのボランティアを積極的に迎え入れ、大会を創り上げる人材・担い手の活躍の場を創出していきます。併せて、自然への思いやりや共生を大切に、環境負荷に配慮した大会となるよう取り組みます。

## みんなで盛り上げる “オール福山” で、ばらのまち福山を盛り上げる

2024年の大会に向け、市民の一体感が図れるよう周知に努め、活躍の場の創出を図る中で、市内のばらが充実し、日々変わっていくまちの様子や市民みんなが協働して大会準備に取り組む姿、福山の様々な魅力などを広く伝え、高揚感や期待感を抱き、高めていけるようにしていきます。市民に対してだけでなく国内外に対しても、時期を得た効果的な情報を戦略的に発信していきます。

また、福山ばら祭などの福山市でのイベントや2020年の東京オリンピック・パラリンピックを始めとした全国的なイベントとの連携、プレイベントの開催などによって、市内外から盛り上がりが見られるよう取り組みます。

世界中の人が注目する大会を、大学や企業等の発展、PRや社会貢献できる絶好の機会ととらえ、様々な分野の人を巻き込みながら大会開催へ臨みます。

大会では全国の28の自治体が加入する「ばら制定都市会議(ばらサミット)<sup>※3</sup>」の同時開催により、盛り上がりを図るとともに、魅力的なコンテンツを多数展示・紹介することで、参加者みんなが楽しみ、心踊るような新しい発見ができる大会を実現していきます。

※3 ばら制定都市会議(ばらサミット)…「ばら」を「市町村の花」として制定している地方公共団体やばらが広く住民に愛好されている地方公共団体により構成される会議のこと。1992年(平成4年)福山市の提唱により始まり、2019年(平成31年)3月末現在で28の市町が加盟。

(加盟自治体)岩見沢市、秩父別町、村山市、前橋市、玉村町、八千代市、横浜市、綾瀬市、箱根町、氷見市、伊那市、中野市、坂城町、可児市、神戸町、島田市、富士市、西尾市、岸和田市、豊中市、茨木市、寝屋川市、松原市、加東市、福山市、宇部市、粕屋町、鹿屋市



## みんなで輝く さらに発展し、輝き続けるばらのまち福山へ

大会は、福山とばらの新たな未来を切り拓くことをテーマとしています。

大会では、ばらの栽培技術はもちろんのこと、ばらのイメージや特性を生かした美容・健康・食・芸術などのばらのイノベティブ<sup>※4</sup>な可能性を世界へ積極的に発信していきます。この大会を成功させることで、福山の産業が大いに活気づき、まち全体の経済が活性化されることをめざしていきます。こうした取組の中で、年間を通じて福山のばらの歴史を始め、ばらの様々な情報が発信できる施設等の検討も行っていきます。

また開催に向け、ユニバーサルデザイン<sup>※5</sup>の考え方に基づくバリアフリー整備や危機管理対策など安心して安全に過ごせるよう準備をしていくとともに、福山駅前周辺を始めとした市内のばらの充実や公園整備のほか、インバウンド<sup>※6</sup>対応の推進、案内サインやピクトグラム<sup>※7</sup>などの多くの情報案内を充実させていきます。昼夜を問わず福山のまち全体を楽しめる飲食、買物、観光周遊モデル等を積極的にアピールし、大会だけでなく今後の観光振興にもつなげていきます。

この大会を契機に、福山のまちが、そして人が輝き続けているような次なるステージへと一歩を踏み出す大会とします。

---

※4 イノベティブ…「innovative(革新的な)」の意。創造性が高く、革新的なもの・ことを発信できる取組や組織等のことを意味する。

※5 ユニバーサルデザイン…年齢・性別・身体・言語など人々が持つ様々な特性や違いを超えて、できるだけ全ての人々が利用しやすい、全ての人に配慮した環境・建物・製品などのデザインをしていこうという考え方のこと。

※6 インバウンド…原義は「外から中へ入る、内向きの」の意。主に観光分野において「外国人の訪日旅行」又は「訪日外国人そのもの」を意味する。

※7 ピクトグラム…何らかの情報や注意を示すために表示される看板などの視覚記号(サイン)や絵文字のこと。



## 6.福山大会のレガシー



世界バラ会議は、世界中のばらの関係者が注目する世界的なばらの祭典です。

開催に当たっては、世界バラ会連合と、それに加盟している日本の全国的な組織である日本ばら会と十分な連携・協力・情報共有を行い、進めていきます。世界バラ会議の目的や精神、そして世界バラ会連合の50年の歴史の中で築かれてきた財産を開催地である福山が引き継ぎ、さらに大会で生み出される成果としてレガシーを未来へ、後世へとつなげていかなければなりません。

大会では「Roses for the Future～福山からはじまる、新しい未来～」をテーマに掲げ、人々との交流や体験を重視した記憶に残る大会をめざすとともに、ばらの持つ力や可能性を探求したビジネスにも結びつく新たな提案につなげていきます。

福山の戦後復興の象徴がばらであったように、花や緑は社会がどんな時代にあっても、どんな国・地域にあっても、平和な社会の基盤となる重要な要素です。

また、日本では本格的な高齢社会・成熟社会を迎え、心の豊かさを「求める」時代から「深め高める」時代へとシフトしてきています。

そんな変革期にある日本で花や緑のある暮らしを改めて提案することは、人々のライフスタイルにも影響を与え、地域のコミュニティ形成やまちづくり活動にもつながります。

こうしたまちづくりや世界平和、新たな時代を見据えたライフスタイルに貢献できるばら（花）や緑の力を、この福山から発信していきます。

2024年の大会は、世界バラ会議の第20回の記念すべき大会として世界バラ会連合や国内外に対して確かな成果を残し、そして福山のまちにも歴史に刻まれるレガシーを残す大会とします。

### レガシー1 世界的なプロジェクトへの参画と国際都市福山の実現

世界中から訪れる多くの人を、福山の心であるローズマインドを大いに発揮して市民みんなでお迎えし、交流やふれあいを大切にした福山ならではの大会をめざしていきます。

こうした取組により、ばらをテーマとした国内外の技術・産業・情報・文化の相互の交流が促進され、市民の多文化共生を尊重する意識と国際感覚が養われることにつながります。

また、大会を通じて将来的に国際社会で活躍できるグローバルな人材を育成し、世界に誇れる国際都市福山をめざします。開催に関わる市民の多くが、世界的なプロジェクトの参加者として大会の基本方針や開催意義を意識し、準備段階から積極的に参画できるような機会を創出していきます。同時に、大会の成功に欠かせないボランティアの裾野の拡大も推進していきます。特に、学生を始めとした若者、アクティブシニアや外国人の参加も積極的に促せるよう、活躍の場の創出に取り組みます。市民が一体となって様々な立場の人と大会を創り上げるその経験や人々の交流、活躍そのものをレガシーとして、大会開催後の定着につなげていきます。

## レガシー2 ばらのまち福山の観光や産業の振興

大会は、福山とばらの新たな未来を切り拓く大会です。この大会を通じ、福山の観光や産業への展開を図り、まちの活性化につなげていきます。

具体的には、ばらの栽培技術や多彩な関連情報を集積して、ばらの持つ新たな価値を発信し、ばらに関するビジネスチャンスの創出と拡大、担い手の育成を図り、併せて世界のばら情報拠点等を整備することで、恒常的にばら関係者が福山市を訪れる仕組みを検討します。観光面では、大会に訪れた人々に、福山城や鞆の浦を始めとする福山の魅力や近隣のまちの魅力を伝えることで、リピーターの増加を促します。また、多種多様な観光商品開発などを進め世界的な大会の場を活用し、認知度の向上を図ります。

また、ばら園を整備するとともに、インバウンド受入環境やユニバーサルデザインを取り入れるなど、誰もが安心・安全に過ごすことができるまちを整備し、持続可能なばらのまち福山を構築します。さらに、国際コンベンションの受入れのノウハウを蓄積し、今後の誘致につなげます。

## レガシー3 「新しい協働」の形から、市民が誇れるばらのまち福山に

世界バラ会議は、世界中の多くの人々が注目し、海外から多くの人々が福山に集まる大会です。この大会の開催前から開催後においても、まちづくりに取り組む市民の姿を戦略的にアピール・発信することで、世界に誇れるばらのまち福山の知名度が国内外にますます広がるのが期待できます。

また、大会を機に更にばらの普及に努めるとともに、ばらの持つ可能性を探り、ばらに関わる様々な情報を発信していくことで、「ばらと言えば、福山」と国内外から呼ばれるような福山のブランド力向上をめざしていきます。

市民による約1,000本のばらの植栽から始まったばらのまちづくり。この取組が協働の原点となり、これまで様々なまちづくり活動が展開され、まちの発展に寄与してきました。大会は、これまで築いてきた市民の力を着実に次世代に継承し、更に発展できる舞台ともいえます。

2024年の大会に向け、市民・団体・企業・学生など多様な立場の人々と連携し、大会や大会開催後の未来のまちの姿を共に思い描き、新たなまちの魅力や地域の価値を創り上げる目標を設定し実践していくこの取組は「新しい協働」の形として大会の成果となります。

そして、子どもから大人まで市民一人一人が主役となってこの大会を成功させることは、人々にかげがえのない感動と記憶を残します。

こうした取組により福山に対するシビックプライド<sup>※8</sup>の醸成につなげ、大会後も更に発展し輝き続けるばらのまち福山を実現していきます。

---

※8 シビックプライド…シビック(市民の、都市の)とプライド(誇り)を合わせた言葉で、「市民の愛着と誇り」を表す。「シビックプライド」には、思いだけにとどまらず「私たちのまちは私たちが支える」「自分たちが関わって自分たちが住むまちを良くしよう」という主体性を持って取り組む姿勢も含む。



## 7.福山大会の概要



### 大会名称

第20回世界バラ会議福山大会  
(The WFRS 20th World Rose Convention in Fukuyama)

### 開催時期(想定)

- プレツアー  
大会前/5日~6日間
- 本会議  
2024年5月(7日間)/講義・ばら園視察・交流行事・各種委員会ほか
- ポストツアー  
大会後/6日~7日間

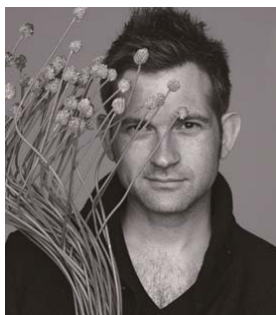
### 登録参加者想定数(参加国・地域数)

約40か国・地域から約600~700人

### 開催場所

福山市 他

### ばらのまち福山PR大使 ニコライ バーグマン メッセージ



ばらのまち福山には、現在100万本ものばらが咲き誇っています。この美しいばらの力によって人々のつながりが生まれ、また国内外から多くの観光客も訪れていることは、とても素晴らしいと思います。

2018年(平成30年)5月、福山が次なるステージ、世界に誇れるばらのまちとなるよう想いを込め、福山のみなさんと一緒に開発した「ニコライ バーグマン ふくやま ローズ」という新しいばらが誕生しました。そして、7月には、私の出身地であるデンマークのコペンハーゲンで開催された「世界バラ会議」で福山大会の開催が決定されたことは、大変嬉しく思います。

2024年には、ここ福山にて「世界バラ会議」が開催されます。福山が誇るばらを世界のみなさんに知っていただけるまたとない機会になるでしょう。私もとても楽しみにしています。

みなさん、美しいばらのまち福山にぜひお越しください。

#### ● ニコライ バーグマン … デンマーク・コペンハーゲン出身

ヨーロッパスタイルをベースに、北欧のテイストを細部にまでこだわる日本らしい感性を組み合わせた独自のスタイルの作品で知られる。また、ファッションやデザインの分野でも世界有数の企業と共同デザインプロジェクトを数多く手がける。フラワーショップを中心にフラワースクールやカフェを展開するなど、ワールドワイドに活動を広げている。



## 8.ロードマップ



2024年の福山大会を成功へと導き、市民みんなに福山への誇りと愛着が生まれ、更に発展し輝き続ける「ばらのまち福山」が実現できるよう福山大会の開催準備から開催後まで、次のロードマップを道標として活用します。

項目	年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025～
世界大会	世界大会	コペンハーゲン大会 (デンマーク)			アデレード大会 (オーストラリア)			福山大会 (日本)	
	地域大会		南陽大会(中国) コルカタ大会(インド)	ブリュッセル大会(ベルギー)					
福山市イベント				全国都市緑化 ひろしまフェア		福山城築城400年記念事業		ばら制定都市会議 (ばらサミット)	
大会計画・準備		世界バラ会連合・日本ばら会との連携						世界バラ会議 福山大会	
		基本方針策定	基本計画策定	実施計画策定 (大会プログラム・警備救護計画等含む)		実施運営マニュアル策定			
組織		準備委員会		実行委員会					
			ロゴマーク制作・決定						
市民参加		市民参加の場の創出、大会記念ばら作出検討・交流機会創出準備・実施(市内小学校国際交流など)・関連イベント・プレイベント							
広報PR		広報活動等							
大会ボランティア				大会ボランティア システム構築	募集開始 随時受付	随時受付/研修	研修/説明会開催	事前 説明会	
ステークホルダー との連携		発掘・リスト作成・依頼・連携・情報交換(随時)							
スポンサーシップ		スポンサー、大会パートナー							
国・他自治体 との連携		国(総務省 地方創生 観光庁 MICE関連 農水省 花き振興ほか)/広島県/近隣自治体/ツアア一地自治体/ばら制定都市会議との連携(随時)							
ツアー			(プレ・ポスト) ツアー候補地選定	(プレ・ポスト) ツアー地決定					
環境整備 インバウンドインフラ		環境整備計画、設計、工事、既存施設の改修							
その他		大会開催決定 各世界大会等情報収集	大会予算規模決定 会場確保・宿泊施設検討	参加登録システム構築 招致講演者の検討 講演者等の確保	開催プレゼン 引継ぎメモニー 警察・公安委員会調整	参加者受付開始 早期事前登録 各種リハーサル	大会記念ばら発表 各種リハーサル 参加者リスト作成 招待者検討・案内	礼状送付	

大会レガシー 継承

大会総括

世界バラ会議 福山大会



## (補足資料) 開催経歴／歴代開催都市 一覧



世界バラ会連合は1968年(昭和43年)に設立され、1971年(昭和46年)から世界バラ会議が世界中で開催されています。

開催回	開催年	テーマ	都市	国
第1回	1971年(昭和46年)	Rose World'71	ハミルトン	ニュージーランド
第2回	1974年(昭和49年)	Rose World'74	シカゴ	アメリカ
第3回	1976年(昭和51年)	RNRS Centenary	オックスフォード	イギリス
第4回	1979年(昭和54年)	Roscent'79	プレトリア	南アフリカ
第5回	1981年(昭和56年)	Rose Pilgrimage'81	テルアビブ	イスラエル
第6回	1983年(昭和58年)	Rose Romantic'83	バーデンバーデン	ドイツ
第7回	1985年(昭和60年)	Rosecapades'85	トロント	カナダ
第8回	1988年(昭和63年)	Rose Australis	シドニー	オーストラリア
第9回	1991年(平成3年)	Rose Emerald	ベルファスト	イギリス(北アイルランド)
第10回	1994年(平成6年)	Rose World'94	クライストチャーチ	ニュージーランド
第11回	1997年(平成9年)	Benelux'97	ブリュッセルほか	ベルギー オランダ ルクセンブルク
第12回	2000年(平成12年)	Texas 2000	ヒューストン	アメリカ
第13回	2003年(平成15年)	Glasgow City of The Rose	グラスゴー	イギリス(スコットランド)
第14回	2006年(平成18年)	Melody of Oriental Roses	大阪市	日本
第15回	2009年(平成21年)	World Rose Festival	バンクーバー	カナダ
第16回	2012年(平成24年)	Rosafrika	サントン	南アフリカ
第17回	2015年(平成27年)	Lyon Roses 2015	リヨン	フランス
第18回	2018年(平成30年)	A Fairytale of Roses	コペンハーゲン	デンマーク
第19回	2021年		アデレード	オーストラリア
<b>第20回</b>	<b>2024年</b>	<b>Roses for the Future</b>	<b>福山市</b>	<b>日本</b>

